

# 産業 **Impression!**

クリス・グレンの

Past to the Future!!

オーストラリア出身で日本をこよなく愛するクリス・グレンさんが中部地域の産業の現場や遺産をめぐるります!

暮らしに欠かせないガラスのびんや器。私たちが普段何気なく使い、手にするガラス製品を200年にわたり作り続けているのが愛知県岩倉市に本社工場がある石塚硝子株式会社。今回、クリスさんは、その工場を見学。「容器」という分野で培ってきたものづくりの気概と「ガラス」という枠にとらわれない柔軟性を感じてきました!



Vol. **5**

## 可能性は無限大!? ガラス作りの現場へ



撮影協力  
石塚硝子株式会社

1819年(文政2年)、初代の石塚岩三郎氏が今の岐阜県可児市でガラスの製造を開始。1888年(明治21年)に名古屋へ移転、1961年(昭和36年)、岩倉工場が稼働し食器事業に本格参入する。以降、ガラスのみならず紙容器やペットボトル(プリフォーム)事業への進出、また機能性マテリアルの研究・開発など多岐にわたる事業を行う。 <https://www.ishizuka.co.jp/>

### クリス・グレン

オーストラリア出身。名古屋市在住。ラジオDJとしてZIP-FM「RADIO ORBIT」(日曜10:00~13:00)を担当するほか日本の魅力を伝える外国人として、NHK「プラタモリ」、NHK WORLD「CASTLE QUEST」「NINJA TRUTH」など、テレビ出演も多数。趣味は戦国時代の歴史研究、甲冑武具の収集、城めぐりなど。「日本人よりも日本人」な外国人として注目されている。

<http://www.chris-glenn.com/>



~これから~ **Future**

樹脂に比べて熱や光に強い「有機無機ハイブリッドガラス」。素材の組み合わせで硬度を変えられる。



**ガラス製造の技術から  
新素材も生まれた!**

「モノづくり」「ヒトづくり」「ユメづくり」が石塚硝子のビジョン。注目は、ガラス研究で培ってきた技術を活用して抗菌や消臭効果を持つ素材や、まるでシリコンのようにやわらかいガラスの開発など、新たな可能性を広げていること。「無機材ならではのさまざまな利点があるガラス素材。これからどんな分野で活用できるか、突き詰めていくところです」(佐々木さん)



抗菌効果がある素材「イオンビュア」(上)。下は消臭効果がある「消臭ガラス」。トイレの壁材に混ぜるなどの用途が。



「イオンビュア」は弁当箱やバスアイテムに使われるなど効果を発揮。

ものづくりを究め、時代に合わせて柔軟に対応してきた石塚硝子さん。200周年を迎え、これからの未来もきっとガラスのようにクリアですね♪

**Amazing!**

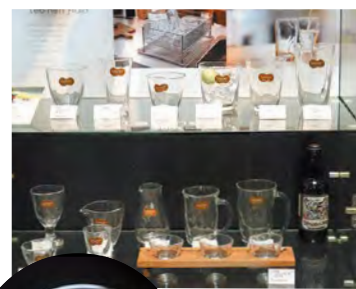
~いま~ **Now**



今回見学したのは、ジュースガラスの製造ライン。

**ガラスはもちろん  
「容器」はすべてお手のもの!**

本社岩倉工場では、約500人が働く。一度点火した溶解炉は、ガラスを溶かし続ける温度を保つ必要があり10年以上は消せない。そのため、24時間体制で製品づくりが行われている。ガラス製造の一方、1972年(昭和47年)のプラスチック容器事業への進出を皮切りに、紙容器、ペットボトル製造に乗り出すなど、総合容器メーカーとして躍進。時代とともに素材の発展や顧客のニーズを的確に捉えてきた柔軟性がある。



2001年(平成13年)に佐々木さんがデザインを担当した「tebineri」シリーズ。同社のロングラン商品。



コップの底の「ADERIA」の文字は石塚硝子の工場で作られたことを表すもの(強化ガラス製品に刻印)。

ペットボトルをブロー成形\*する前の「プリフォーム」は国内シェアNo.1。効率よく運送するため、この形で各飲料メーカーの工場へ運ばれる。

さまざまなチェック項目をクリアしたものが製品となる。



万が一不良が出ても再び溶かして使える。ガラスはエコな素材ですね!

**Good!**

\*ブロー成形:柔らかな状態の材料に空気を吹き込み金型などに押し当て成形する方法

~これまで~ **Past**



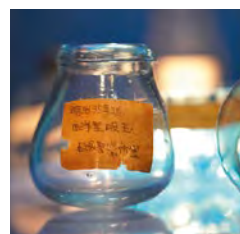
1947年(昭和22年)、京都の会社と合同で電球の製造をしていたこともあったという。

**独自でガラス製造に乗り出した  
初代・岩三郎氏の行動力と技術力**

武士の家の次男として生まれた石塚岩三郎氏が長崎で出会ったガラスに感銘を受け作り方を学び、今の岐阜県可児市土田で製造を開始したのが1819年(文政2年)。当時のガラスは装飾などに使う高級品が主だった。明治~昭和初期に入ると、庶民が使うガラスびんや電球、器などの実用品を大量生産するようになり、ガラス産業自体も発展した。

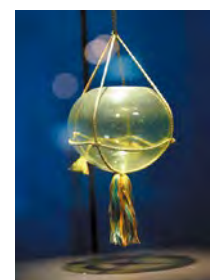


初代・岩三郎氏が使っていたという、ガラスを溶かす「るつぼ」。



現存する石塚硝子の製品で最も古い明治時代に作られた吸い玉。

岩三郎氏が使った原料と製法で「土田のびいどろ」を再現した金魚玉。3年がかりで完成させたという。本社工場ショールームに展示。



「江戸時代に窯づくりからすべてハンドメイドでガラスづくりをするのは大変なプロセス」と佐々木さん、高田さん。

新しいもの好きだった徳川慶勝公も、ガラスの美しさに魅せられたんですね!

**Wow!**

**「ガラス」と「容器」を追求する200年企業!**

どーも、どーも、どーも! クリス・グレンです。今回は、祝! 200周年の江戸時代から続く容器メーカー・石塚硝子の工場へ! ナント、初代の石塚岩三郎氏は尾張藩主・徳川慶勝公からビードロ細工の注文を受けていたというから、日本の歴史大好きなボクは大興奮! どんなものを献上したのか記録は残っていないようですが、きっと素晴らしい仕事をしていたに違いない!

そんなDNAを受け継ぐ社員の皆さんも、最高の技術で妥協のないものづくりを行っています。見学させてもらった工場はとてもエキサイティング! まず武骨な機械がカッコ良く、溶けたガラスが次々と成形されてガラスになっていくプロセスが面白い! また、ガラスの研究から新たな原料が生まれていることもうかがって、可能性の広がりも感じました!

ご案内いただいたのは...  
人事総務グループ 主幹  
高田 英樹さん



ハウスウェアカンパニー  
市販部 販促グループ リーダー  
佐々木 崇也さん